

## 主な出展リスト

- ◆『夢』1890年 フランス  
 PC-41 ポスター / テオフィル・アレクサンドル・スタンラン画 / フランス / 1890年  
 AP-275 アンティークプリント(タイタ役:マウリ) / アルフォンス・ミュシャ画 / フランス / 1894年
- AP-155 アンティークプリント(島の女神役:G・オットリーニ、青波の女神役:ロブシュタイン) / アルフォンス・ミュシャ画 / フランス / 1894年
- 参考展示 『舞台衣裳』 / フランス / 1890年  
 提供: フランス国立図書館 Bibliothèque nationale de France (BnF)
- 参考展示 『夢』ピアノ編曲版 / フランス / 1890年頃  
 原曲: レオン・ガステイヌル / 編曲: ヘンリ・クラメル / 演奏: 三浦榮里子  
 楽譜提供: フランス国立図書館 Bibliothèque nationale de France (BnF)
- ◆『ミカドの娘』1897年 ロシア  
 Doc-C-07 初演プログラム(複写)マリンスキー劇場 / ロシア / 1897年11月21日  
 PC-GD-055 オルガ・ブレオブラジェンスカヤ、クラウディア・クリチェフスカヤ / ポストカード / ロシア / 1897年頃  
 PC-B-124-09 着物を羽織ったオルガ・ブレオブラジェンスカヤ / ポストカード / ロシア / 発行年不詳
- ◆『人形の精』1903年 ロシア  
 PC-COS-01 衣裳デザイン / レオン・バクスト画 / ポストカード / ロシア / 1903年
- ◆エレナ・スミルノワ 1916年 ロシアより来日  
 PC-B-145-08 日本舞踊を披露するエレナ・スミルノワ / ポストカード / ロシア / 1917年  
 Doc-C-15 初来日公演プログラム(複写)帝國劇場 / 日本 / 1916年6月16~18日  
 Doc-NP-09-04 読売新聞記事「露國女優が踊の稽古」(複写) / 日本 / 1916年6月15日  
 AU-108 エレナ・スミルノワ、ボリス・ロマノフ署名 / ロシア / 1920年代  
 PC-P-03 エレナ・スミルノワ肖像画 / K・イワノフ、G・クラフィス画 / ポストカード / ロシア / 1918年  
 PC-P-04 ボリス・ロマノフ肖像画 / K・イワノフ、G・クラフィス画 / ポストカード / ロシア / 1918年  
 PC-B-145-03 エレナ・スミルノワ / 『人形の精』 / ポストカード / ロシア / 発行年不詳  
 PC-B-145-07 エレナ・スミルノワ / ポートレート / ポストカード / ロシア / 1915年  
 PC-B-129 ボリス・ロマノフ / 作品不詳 / ポストカード / ロシア / 発行年不詳  
 PH-D-215 ボリス・ロマノフ / ポートレート / 写真 / ロシア / 撮影年不詳

- ◆主要参考文献
- \* 薄井憲二『バレエ千一夜』新書館 1993年
- \* 鈴木晶『オペラ座の迷宮〜パリ・オペラ座バレエの350年〜』新書館 2013年
- \* 鈴木晶編『バレエとダンスの歴史〜欧米劇場舞踊史〜』平凡社 2012年
- \* 岩田隆『ロマン派音楽の多彩な世界』朱鳥社 2005年
- \* Craine, Debra & MacKrell, Judith "The Oxford Dictionary of Dance" Oxford University Press 2000

## 同時開催

### シノワズリ 第63回 常設展「バレエと中国趣味」

企画展「バレエと日本趣味」にあわせ、ボッケ横のガラスケースでは、常設展「バレエと中国趣味」を開催中です。19世紀後半のジャポネズリ(日本趣味)に先んじられた17~18世紀にヨーロッパで流行したシノワズリ(中国趣味)。ロココ調の贅沢な装飾との融合が見事な衣裳デザイン(アンティークプリント)をご紹介します。



## Kenji Usui Ballet Collection

薄井憲二 バレエ・コレクション  
2017企画展

### ジャポネズリ バレエと日本趣味

2017/7/27(Thu.)~2017/9/10(Sun.)

西洋舞踊の代表格ともいえるバレエに「日本を舞台にした作品が存在した」というと、驚かれるでしょうか。19世紀後半、浮世絵の移入やパリ万博の影響でジャポネズリ(日本趣味)が大流行していた頃、異国情緒や新たな表現の探究のために、バレエも果敢に日本的な要素を取り入れていたのです。

ポスターやアンティークプリント、衣裳デザインを手がけたのは、アルフォンス・ミュシャ、テオフィル・アレクサンドル・スタンランといったベル・エポックの代表者や、バレエ・リュスでも異彩を放ったレオン・バクスト。日本で初めて本格的なバレエ公演を行ったロシア人バレリーナ、エレナ・スミルノワの和装姿もご紹介します。細やかな描写や当時の写真から、「バレエにおける日本趣味」の薫香をお感じいただければ幸いです。

## Kenji Usui Ballet Collection Ballet and Japonaiserie

2017/7/27(Thu.)~2017/9/10(Sun.)

- ◎ 企画・監修  
 関典子(せき・のりこ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・キュレーター  
 Noriko Seki (Curator of Kenji Usui Ballet Collection)  
 舞踊家・振付家・舞踊研究者。幼少よりクラシックバレエを学び、18歳でコンテンポラリーダンスに転向。お茶の水女子大学大学院博士後期課程を経て、現在、神戸大学大学院人間発達環境学研究所准教授。日本ダンス評論賞・兵庫県芸術奨励賞・神戸市文化奨励賞等受賞。
- 岡元ひかる(おかもと・ひかる) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター  
 Hikaru Okamoto (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)
- 多賀成美(たが・なるみ) / 薄井憲二バレエ・コレクション・アシスタントキュレーター  
 Narumi Taga (Assistant Curator of Kenji Usui Ballet Collection)

兵庫県立芸術文化センター 薄井憲二 バレエ・コレクション 担当  
 〒663-8204 兵庫県西宮市高松町2-22 tel: 0798-68-0223 (代表) fax: 0798-68-0212

Hyogo Performing Arts Center

# Ballet and Japonaiserie



## ～『夢』1890年 フランス～

『夢』(1890)は、『イエッタ』(1879)と共にパリ・オペラ座で上演された、日本を舞台とするバレエ作品である。

時代は16～17世紀、舞台はキオト(京都)の近く、海辺の村タケノ(琵琶湖沿岸との説もある)。主人公の村娘ダイタはタイコという婚約者がいるにも関わらず、領主サクマに思いを寄せている。女神イザナミは、ダイタの願いを叶えるべく彼女を連れ去る。夢の中でダイタとサクマが結ばれようとするところに、婚約者タイコが登場。ダイタを取り戻し逃げようとするタイコは、サクマが放った矢に倒れてしまう。ショックのあまり気を失ったダイタが目覚めると、タイコや友人たちが迎えにくる。全ては夢だったのだ。一時の気まぐれを詫げるダイタ、タイコは優しく抱きしめる。

『夢』で特に評判を呼んだのは、巨大な開閉式の扇の舞台装置であった。「黒猫(シャノワール)」で有名なスタンランが描いた初演ポスターにも、巨大な扇の中央から女神イザナミが出現する様が見てとれる。チュチュの上に着物をまとい、扇を持って踊る主人公ダイタの周囲には、松、月、竹組み、書を意識した文字など日本的な風物があしらわれており、このバレエが日本趣味をできるだけ忠実に表現しようと努力したことが想像できる。

〈振付ハONSEN 台本ブロー 音楽ガスティール  
初演1890年6月9日 パリ・オペラ座〉



## ～『ミカドの娘』1897年 ロシア～

19世紀末のロシアでは、日本文化を題材にしたバレエ作品が続けて3本上演された。『ダイタ』(1896)は日本の音楽文化を、『ミカドの娘』(1897)は文学作品を取り入れ、『月から日本へ』(1900)はロシア貴族たちの日本文化への高い関心を示している。本展で紹介する『ミカドの娘』は、ギルバートとサリヴァンの有名なオペラ『ミカド』(1885イギリス・サヴォイ劇場で初演)の影響を受けているともいわれる。振付は『白鳥の湖』蘇演版(1894)の湖畔の場を手がけたイワノフ、音楽ヴァンゲリ。劇中劇にはバントマイムで「忠臣蔵」が演じられ、これは世界の舞台における「忠臣蔵」上演例の中でもかなり早いうちに入る。フランスでの『夢』と同様、和洋折衷の衣裳、扇や和傘などの小道具が印象的に用いられている。

〈振付イワノフ 台本ランガメル 音楽ヴァンゲリ  
初演1897年11月9日 マリンスキー劇場〉



## ～『人形の精』 1903年 ロシア～

『人形の精』は、閉店後の夜の玩具店で人形たちが生命を得て踊り出す楽しい作品。中国やスペインなどの民族舞踊と共に日本の踊りが組み込まれている。ゆるやかなボルカ・マズルカ風の楽曲は和風ではないが、そのしなやかな曲調は、意外にも着物での踊りにマッチしていたようだ。

初演は1888年10月4日、ウィーン宮廷歌劇場(振付ハスライター 美術プリオン)。様々な演出によって世界中で演じられており、アンナ・パヴロワも自分のカンパニーのレパートリーにしていた。1903年のレガート兄弟版では、舞台美術と衣裳が、後にバレエリュスで大活躍するバクストに委ねられ、注目を集めた。

〈振付レガート兄弟 台本ガウル&ハスライター 音楽ハイヤー  
初演1903年2月7日 エルミターージュ劇場〉

## ～エレナ・スミルノフ 1916年ロシアより来日～

1916年6月16～18日、帝室マリンスキー・バレエのエレナ・スミルノフと、後に夫となるボリス・ロマノフが来日し、帝国劇場で日本初のバレエ公演が行われた。この公演は、第4次日露協約に向けての文化交流として実現したもので、スミルノフは、公演の前後に日本舞踊家の藤間藤蔵に弟子入りして『浅妻船』を稽古したことが知られている。スミルノフがこの時習得した日本舞踊は、日露協約調印後、答礼使節としてロシアに渡った閑院宮載仁親王を迎えてのマリンスキー劇場での御前公演をはじめ、度々ロシアで披露された。

